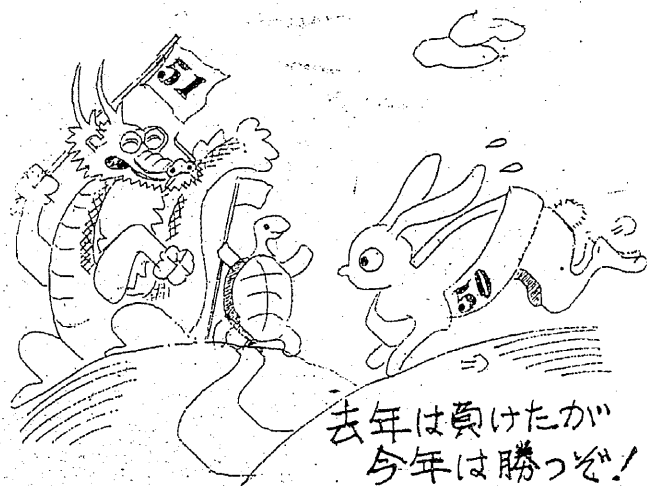


でこそ道開く

意を語り合う座談会



前進した労働者階級の力量

山下 あけましておめでとう
おめでとうございます。

この第一の課題は、何と云っても七六春闘に向かっている前進してゆか、ということですが、インフレ・高物価に不況が一段と加わって深刻さを増し、従って資本の合理化攻撃がますますはげしくなる、と思われまふ。なかでも特徴的なものが、自治体とそこに働く労働者への攻撃です。

一方軍事的面面でもきわだつたことが現われています。東南アジア全域での民族革命の前進。アメリカ帝国主義の後退。

それにかわって、日米支配層の関心がお隣の韓国に向いていて、韓国に足場をおく新しいアジア安保体制づくりがすすんでいきます。

そんなあわただしい情勢のなかで、炭労は七五春闘・夏季・秋季闘争、とたたかっています。要求を率直にいうとその闘いは悔いを残したようですが、他方、公労協労働者はスト権獲得という、労働者の基本的権利の回復をめざし、前後八日間にもわたるストライキを断然とちびきました。要求を実現することはできませんでしたが、そこにはかつてない労働者の前進が見られます。

私たち労働者は、公労協労働者が事実をもつて示したこのエネルギーをこそ土台にしながら、課題を実現するため、七六春闘を組まなければなりません。さて、皆さんの率直な意見を聞かしていただきたいのですが。

早い妥結に割りきれぬ気持

甲 斐 七四年度では一千万四百円の大増賃上げと三十三万*



甲斐さん

この認識の誤りがあった、と私は見えています。
「石炭は売れよ、売れよ。この分では、賃上げもままままだらう」。これがあつたきりなかつたからですね。

五円の上上げ回答で春闘妥結。期末手当も、不十分のまま終りとなりました。



早田さん

なかでも下期々末手当闘争は、一日のストをうけてもなかつた。

本来、賃金や労働条件は、労働者が団結し闘ってこそ、きまもので、新労組員の人びとも、自分たちの組合がストをうけてきまないと大きな目を感じていながらも、心のなかでは強く炭労・三池の闘いに期待もしている。

その新労組員の人びとが、つたす「あの程度の会社回答で、よう妥結した」と。

前進した労働者の力量

石炭見直しの幻想崩壊

命を守るのは団結の力

実現しよう人間的な生活

東どこのヤマで犠牲者が出たおかしな準備する自信は全然あすべきです。こんな現実について、まともな意見もあつていて、果たして何ができますか。

結果はなるほど、資本の側に限り見直されたものの、こつちに対してはまったくゼロ。それどころか、災害統括というお返し。「あ

「あ」と思いました。

下期々末手当闘争なんか、過去の反省のうえに立って炭労も「早期要求、長期闘争」としてつたつたに、妥結も早期になつてしまつたからですね。

平川 妥結にはほんとは「あ」と思いました。

「あ」と思いました。



地域分会がきまつて主催する新年団結集会で、組合員・主婦は新しい年のたたかいへの団結を誓い合う。三池闘争以来の、美しい伝統だ。



松原さん

どう闘いを組むか。

甲 斐 ①第一に決意すべきは統一闘争。そこから道を開けるはず。②他産業の仲間との交流。③内部の団結の点検して、助け合いを強めること。

早田 それで、保安をどう確保するか。毎日の新聞にも、災害のことばかり。またどうある岩粉のなかで、平気で仕事しているところを見ます。じん肺の多発も心配されます。保安に関する限り会社に頼っているのは殺される。

自分たちの命は、もともと団結でしか守れない。それで、三池労組と新労組員を区別せず、市民さまでいられる市職員の闘いからまなんでいきたいと思つています。



平川さん

ここに、抗外賃金を合わせている。山本 私は下請の仕事で、職場は化学ですが、主人と私の二人分の賃金を、化学の皆さんはもらっているのですよ。同じ、抗外労働者ですのに。それで、いいなさいとですよ。「今、炭鉱はよかですね」。石炭見直し、こんな錯覚を生んでいるんですね。

平川 それも職場のたたかいを中軸に八時間労働・週休二日制など絶対に実現すべきで、人間的な生活を要求することは、だれより炭鉱労働者の権利だと思つます。そのためには執行部と組合員間の交流、また炭労各支部組合員同志の交流などがきつて大切なこと。とにかく指導部にもつと職場の実態をつかんでほしい。



山本さん

病気ででもしたらスト

松原 よき自からは、私

その、七六春闘ばかりでなく、あらゆるたたかひの力ともなるのではないかと思つますね。

命をうしなつては何もない

小川 国民春闘として

春闘は、足もとを見てから

木下 各産業には週五日

幻想に頼つたところに誤り

早田 私たち炭鉱労働者